

くま の もうで

～熊野不思議？不思議～

虫の熊野詣展

古い時代から神秘の地「熊野」に魅かれ、多くの人々が難行苦行の旅ながら、「熊野詣」を行ってきました。人々を魅了してやまない「熊野の魅力」とは、一体何なのでしょうか。それは、熊野を訪れるすべての人々の思いに応じられる「ふところの深さ」にあるのかもしれません。

私たちの気づかない世界で、はるか昔から今日に至るまで、「虫の熊野詣」が続いてきました。虫にとっての「熊野の魅力」とは何なのでしょうか。そしてどんな「参詣道」を利用してたどり着いたのでしょうか。

よろず受け入れの地・熊野

熊野は、紀伊半島の南端部にあり、山々が幾重にも連なり、その山間を縫うように大小の河川、溪流が熊野灘に流れ込んでいます。春から秋にかけては、大量の雨が降り、冬は黒潮の影響を受け、晴天が続き温暖です。また、夏は豊富な湧水や朝夕発生する濃い雲霧などにより冷涼な環境を備えています。

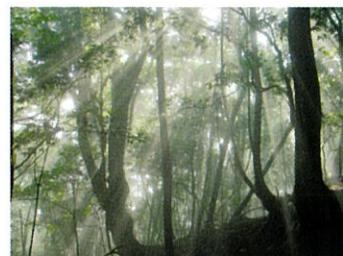
このように温暖・冷涼兼備、気温較差の少ない熊野の自然は、様々な出身地の虫たちを受け入れ育める桃源郷であるとともに、南に大きく突き出た半島南部に隔離されたこの地は、虫たちの進化の舞台ともなりました。



那智の滝と原生林



海岸照葉樹林



深い山霧



尾根や北斜面のモミ・ツガ林

渾然
一
体
の
世
界
(多
様
性
・
包
容
力
)
に
憧
れ
て

熊野では、南方系・暖地性・深山性・北方系要素の虫が入り乱れてすんでいます。厳しい熊野詣の後、幸運にもこの渾然一体の世界を満喫している虫たちを紹介しましょう。

深山にもすむ南方系・暖地性の虫

シワナガキマワリ
本州・四国・九州に分布オオゴキブリ
本州～九州・対馬・屋久島、国外では台湾に分布イシガケチョウ
本州(南西部)・四国・九州・南西諸島に分布

低地や海岸照葉樹林に適応した北方系・深山性の虫

ベニヒラタムシ
北海道～九州に分布ルリヒラタムシ
北海道～九州に分布ルリボシカミキリ
北海道・本州・四国・九州に分布アカアシクワガタ
北海道～九州・対馬、国外では朝鮮半島に分布

甦りの地を求めて

熊野は周りから隔絶された地で、虫たちにとって進化を遂げる絶好の舞台になりました。「甦り」に成功し、華麗に変身した虫たちを一部紹介します。



ナンキセダカコブヤハズカミキリ
おおとうさん おおぐもどりさん
大塔山系、大雲取山系の特産亜種



ナチマイマイ
那智山周辺の特産種



ナンキウラナミアカシジミ
熊野の特産亜種

虫の熊野参詣道

寒冷な氷河期から今日まで、たくさんの「虫の熊野詣」が行われています。

江戸、明治のころ、人手によって日本に渡り、長い年月をかけて熊野詣を成し遂げた例も紹介します。

くろしおみち

黒潮路（黒潮暖流に乗って）

温暖な今日、黒潮は南方から熊野詣をする虫にとって最高の海路になっています。流速は2~2.5ノット(時速3.7 km~4.6 km)で、屋久島から流れ出した流木が熊野に6日ほどで着きます。



サツマコキブリ
紀伊半島南部以南に分布



マメクワガタ
伊豆諸島・紀伊半島～南西諸島に分布



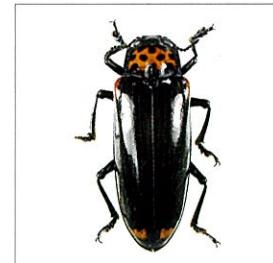
ムラサキオカヤドカリ
小笠原諸島より以南に分布
紀伊半島南部にも見られる

ひょうがみち 氷河路（氷河を逃れて）

新生代第四紀の氷河期によって、寒・暖が繰り返され、その間、多くの虫たちが熊野への進入・後退を繰り返しました。現在でも、その虫たちの子孫が、ここ熊野の地に生き残っています。



ヒメオオクワガタ
北海道・本州・四国に分布



オオキンノコムシ
北海道～九州に分布



コサンエ
北海道～本州に分布



ヨツボシントンボ
北海道～九州に分布

なんせいふうみち

南西風路（台風・季節風に乗って）

台風や低気圧による風は、主に移動力の強いチョウやトンボなどが熊野詣道として使ってきました。今日でもたくさんの虫がこの道を利用しています。



オオキンカムエシ
関東以南の本州～九州、南西諸島に分布

くるまみち 車路（車に便乗して）

車を利用して移動する虫は多々ありますが、途中下車を繰り返しながら、ようやく熊野にたどり着いた虫を紹介します。



ラミーカミキリ
台湾・中国・東南アジアに分布する南方系種